

ズームアップ経済統計

マクロ経済データは真に無料の時代に

(アメリカ・セントルイス連銀「Federal Reserve Economic Data」)

ジャパンマクロアドバイザーズ チーフエコノミスト **大久保 琢史**

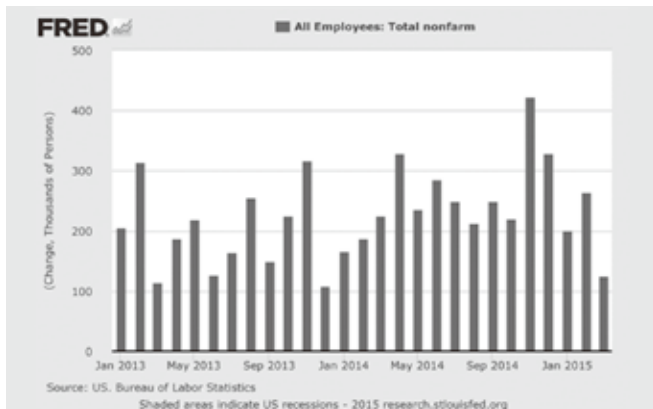
マクロ経済データは民間で作成されるものもあるが、多くは政府・日銀など公共機関が作成し、「無料」で配布されている。しかし、政府統計といっても、実際の利用にはなんらかのコストがかかるのが常であった。筆者は、1997年から経済分析を専門としているが、当時、官庁の発表データをホームページからダウンロードするという技術は日本ではまだ一般的ではなかった。統計は官庁窓口にいけば印刷物として配布されるが、過去のデータとなるとCD-ROMを購入したり、民間のデータベース会社に高額な利用料を払って使うという状況だった。データを入手したあとも、数字の羅列をみてもなかなか分析はできない。グラフにしたり、前年比を計算したり、別の統計と比較するには時間的なコストがかかり、外部にその作成を依頼すれば金銭的なコストがかかる。一本線の単純なグラフであっても、プレゼンテーションで使えるような体裁まで仕上げるには意外と時間がかかるという経験は読者の皆さまも経験されたのではないだろうか。

このマクロ経済データの歴史を考えると、とくにこの数年の進歩には目を見張るものがある。マクロ経済

データが無料、かつ即時で入手可能となっただけでなく、データ加工の時間的なコストも大幅に下がっている。画期的なデータベースの一つとしてアメリカのセントルイス連銀が公開している「Federal Reserve Economic Data」(FRED)があげられる。このデータベースでは、アメリカ政府が発表するマクロ統計データが収録されているほか、金利や主要株価指数、市場の不確実性を表わすことで有名なCIX指数なども入手可能だ。加えて、アメリカ以外の主要データ(たとえば日本の鉱工業指数など)も、若干の遅れはあるが入手することができる。データ入手後のグラフ加工のツールも提供している。グラフの種類も線、バー、パイチャートなど多様で、フォント、文字の大きさ、色なども自由に選べる。そして、作成したグラフは画像としてプレゼン資料などに利用することも容易だ。

図表は、日本でも注目されるアメリカの非農業雇用統計をFREDでグラフ化した。直近の3月には雇用増加幅が12万6000人と前月の26

〔図表〕 このグラフ作成に要したのは2分程度で、費用は無料



(出所) アメリカ労働統計局、セントルイス連銀、ジャパンマクロアドバイザーズ

万4000人から半減し、アメリカの雇用回復の変調を示している。強調したいのは、この図表を作成するのに、まったくデータをもっていない状態から少し考えながらも2分程度しかかからないことだ。経済分析に携わる者がより長く本来の分析業務に時間を費やせるツールであり、また何よりも驚異なのはすべて無料で提供していること。「無料」革命の波が経済分析にも押し寄せている。